

平成30年度 学校関係者評価書（木城町立木城中学校）

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策と手立て	自己評価		自己評価結果の考察・分析及び改善策等	評価委員の評価	評価委員からの意見
			評価	総合評価			
1 学力の向上	(1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着及びそれらを活用する能力の育成を図るとともに、主体的に学ぶ態度の育成に努める。 ・全国学力学習状況調査・みやざき学力調査のA問題の校内平均が全国・県平均以上 ・標準学力調査(NRT)の学年平均が前学年より向上 ・全国学力学習状況調査・みやざき学力調査のB問題の校内平均が県平均と同程度以上 ・3年生の実力テストにおいて、地区の平均を上回る	・全国学力調査やみやざき学力調査等諸テストの結果については、教科別に分析し、指導方法の工夫・改善に生かす。 ・個に応じた指導の工夫や生徒が主体的に取り組む授業づくりを推進する。 ・学習の遅れがちな生徒への、補完的な学習の時間の確保と指導の充実に努める。	2		・全国学力調査(3年)については、A・B問題ともに全国と県の平均を上回り、その後の実力テストでも良好な結果を残してきている。一方、みやざき学力調査(1・2年)では、A・B問題ともに県の平均を下回った。この実態をふまえ、特に基礎・基本の確実な定着と、学習意欲の向上に力を入れていきたい。	2	○1,2年生の学力不足は、中学校だけで対応できる問題ではないが、生徒及び保護者と三位一体となって対応してほしい。 ○今後一層の個別指導の充実と学力の底上げ強化をお願いしたい。 ○保護者と協力して、家庭学習時間の確保とメリハリを強化してほしい。 ○学力に個人差があり、日々の宿題や宅習等の出し方を含めて、見直しが必要ではないかと考える。
	(2) 望ましい学習習慣の確立に努める。 ・保護者アンケートにおける「家庭学習の時間の確保の項目」が指標3以上 ・生徒アンケートにおける「家庭学習時間を確保している生徒」が80%以上 ・生徒アンケートにおける「授業の受け方の自己評価」が指標3以上	・授業の受け方、宿題やフリ宅の取組、忘れ物等についての日々の指導を徹底し、継続する。 ・家庭学習における「学習のポイントや内容、方法」をもとに、生徒への指導と保護者への啓発を行う。	2		・家庭学習時間については、生徒自身も、保護者の目からも不十分であった。保護者と連携した個別指導が必要である。 ・授業の取組は概ね良好であるが、積極性を育てていきたい。		
	(3) 教師の授業力向上に努める。 ・授業の4つのチェックポイントを意識した授業実践の実施率80%以上 ・主体的で対話的な学びの場の工夫についての実践率50%以上	・授業参観を活用して、個々の職員が授業の改善に取り組む。 ・校内での授業研究等を通して、主体的で対話的な学びの場の工夫について、共通理解を図り、各教科で実践を積み重ねる。	3		・生徒に主体をおいた授業改善の意識は進めつつ、学力向上に直結した授業改善となるように、今後、校内研究を通して取り組んでいきたい。		
2 社会性や豊かな人間性の育成	(1) 基本的な生活習慣の徹底に努める。 ・保護者アンケート及び教職員自己評価における「基本的な生活習慣に関する項目」が指標3以上 ・生徒アンケートにおける「学校や家庭でルールやマナーが守れた」とする生徒の割合が90%以上	・学校の規則や社会のルールについてしっかり理解させた上で実践させる。 ・生徒会と協力した、あいさつ運動等の取組を通して、あいさつのできる生徒を育成するとともに、自主的・自律的に行動できる集団づくりに努める。	3		・学校や社会、家庭のルールやマナーが守れ、大きな問題行動等もなく、全体的に見て、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・行事等を通して積極性を発揮する生徒が増えた。	3	○特に大きな問題はなく、今後も保護者や地域と協力して継続的に指導をしてほしい。 ○挨拶については、「さすが中学生」といえる状況にあると思う。
	(2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成を図る。 ・教職員自己評価における「望ましい人間関係に関する項目」が指標3以上 ・保護者と生徒アンケートにおける「人権教育・心の教育に関する項目」が、それぞれ指標3以上と90%以上 ・いじめの調査(毎月)及び教育相談(学期3回+α)の計画的実施	・道徳教育の充実を通して、思いやりの心を育成する。 ・ピア・サポート活動の実践を通して、学級や学校に、学び合い、助け合い、支え合うの風土を醸成する。 ・いじめの調査や教育相談を定期的に行い、早期発見・早期対応に取り組む。	4	3	・道徳教育の充実やピア・サポート活動の推進を通して、よりよい人間関係づくりに努めるとともに、いじめについても、積極的な認知と早期対応に取り組むことで、人間関係の大きなトラブルや重大事案への発展を防ぐことができた。		
	(3) 将来の社会貢献や自己実現を目指すキャリア教育の充実に努める。 ・保護者のアンケートのキャリア教育の項目が、昨年度より向上し、最終的には3学年では指標3以上	・学級活動を中心として、3年間を見通したキャリア教育・進路指導を推進することで、生徒一人一人の自己実現を支援する。 ・高校説明会やオープンスクールへの積極的参加を促すとともに、職場体験学習等を通して進路についての意識を高める。	3		・高校説明会や職場体験学習等を含め、進路についての学習を計画的に実施することができた。一方で、生徒一人一人を見ると、進路についての意識には差があるので、今後、個別の指導や働きかけをしていきたい。		
3 の体力向上と健康教育及び安全教育	(1) 生徒の体力の向上に努める。 ・新体力テストにおける、本校生徒の課題である瞬発力・投力及び柔軟性を向上させる。 ・保護者アンケートにおける「体力向上の項目」が指標3以上 ・生徒アンケートにおける、体力向上への意識をもち努力している生徒80%以上	・新体力テストの結果を分析し、それをもとに、体育の時間を中心に、体力向上の取組を推進する。 ・部活動キャプテン会の指導を通して、部活動の活性化を図る。	4		・体力テストでは、課題の瞬発力と柔軟性は全学年、投力も一部改善し、全体的にも数値が向上した。 ・中体連の地区大会では、秋に野球とソフトテニス、駅伝が優勝するなど、部活生の活躍が目立った。	3	○部活動生を中心に体力を向上させているが、それ以外の生徒も多いと聞く。できれば生徒全員が部活動に所属して、運動の楽しさ等を味わってほしい。 ○毎日、朝食を摂る生徒の割合が98%と高いのでこれを継続できるようにしてほしい。 ○給食の食べ残しがほとんどなく、改善されているのはいいことだと思う。今後も継続してほしい。 ○虫歯治療率100%になることを願っている。
	(2) 健康教育や食育の推進に努める。 ・健康教室の定期的な実施と内容の充実 ・むし歯治療率100% ・給食残量調査における「食べ残しが少ない」生徒が80%以上 ・毎朝朝食をとる生徒90%以上	・学校保健委員会や薬物乱用防止教室、歯みがき指導等の実施を通して、健康に対する意識を高めるとともに実践力を育成する。 ・保健だより等を通して、家庭と連携した指導を推進する。	4		・健康教室の実施や日常の保健指導により、生徒は学校生活を健康的に送ることができた。むし歯治療率については引き続き本人・家庭への働きかけを続けていきたい。		
	(3) 安全教育の推進に努める。 ・安全管理徹底(安全点検毎月実施) ・避難訓練の年3回実施	・校内の安全点検を毎月実施し、安全面での環境を整備する。 ・有事に的確な行動がとれるように、避難訓練の内容を工夫する。	3		・安全点検や避難訓練等の定期的な実施により、大きな事故なく、生徒の安全を確保することができた。		
4 強開かれた学校づくりと家庭・地域との連携	(1) 地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。 ・学校の行事や授業等における地域・保護者との連携の推進 ・参観日の出席率は昨年度(68%)以上 ・地域における体験活動(職場体験や奉仕的活動等)の実施と内容の充実	・地域と連携した教育活動を推進するとともに、PTA活動の充実を通して保護者との連携を深める。 ・地域における体験活動の充実を通して、地域を愛し、地域に貢献しようとする意識を高める。	3		・地域学習や職場体験学習等を通して、地域素材や人材の活用を行った。特に本年度は、新しき村百周年の式典で生徒発表を行うなど、地域との絆を大切に取る取組ができた。	3	○参観日の参加が小学校時代より少ないと感じる。また、PTA活動にももっと工夫が必要ではないかと感じる。 ○「地域の方に見守られている」と生徒が感じるくらい、学校・保護者・地域が連携を強化していく必要がある。 ○学級通信の発行については、学校生活の様子を知ることのできる大切なアイテムの一つなので、拡充を望みたい。
	(2) 小中一貫教育の推進に努める。 ・一貫教育に対する小中学校職員の理解や意識の共有を図る。 ・小中連携活動の推進	・5年後の小中一貫教育校開校を見据え、町教委の指導のもと、準備を進める。 ・木城の児童生徒についての共通理解や小中学校職員の相互理解を図る。 ・あいさつ運動や福祉体験活動、合同授業研究会等の小中連携活動の充実を図る。	3	3	・あいさつ運動や福祉体験活動等の小中合同の実践を通して、児童生徒間の交流を深めることができた。 ・小中合同研究会等を通して、児童生徒の学習面や生活面の共通理解を図るとともに、小中一貫教育に向け、職員の意識の共有を図る事ができた。		
	(3) 積極的な情報発信に努める。 ・学校だより(月1回)や学級通信(週1回)等による情報発信 ・Webページによる情報発信(週1回以上の更新)	・保護者等に対して、学校だより等、各種通信を積極的に発信する。 ・Web上でも、学校の取組や生徒のがんばる姿を広く発信する。	3		・Webページによる情報発信を積極的に行った。生徒の頑張りや学校の取組を、保護者や地域に積極的に伝えていきたい。		